

三重県農村女性アドバイザーネットワーク通信

【vol.32】令和6年3月発行



三重県農村女性アドバイザー研修会 開催



「モーっと」聞こに！話そに！笑おに！



12月5日に多気町のBANKYO文化会館にて農村女性アドバイザーの研修会が行われました。小雨降る中、各地区から農村女性アドバイザー46名が参加。コロナ禍を経て、松阪地区のアドバイザーによる企画『「モーっと」聞こに！話そに！笑おに！』のテーマのもと代表世話人の大西京子さんより「みなさん！大いに笑って、聞いて、話して楽しんでください」とあいさつがあり研修会が始まりました。



まずは、「ともこの部屋」モーっと聞こに！です。竹内牧場の竹内友子さんから自社牧場経営について松阪牛肥育への想いを聞かせていただきました。牛への溢れる愛情が伝わりました。

次に「ゆみこの部屋」モーっと笑おに！では、岩田由美子さんの華麗なる変身の登場で会場はさらに盛り上がり、長岡和子さんとの掛け合いで松阪地区の女性アドバイザーを面白く楽しく紹介くださり、松本しのぶさんとの松阪弁クイズもあり、子供のころに聞いたことのあるフレーズに懐かしさを感じながら参加しました。クイズの正解者には松阪弁付箋の商品がプレゼントされました。そして「野菜スタンプの部屋」モーっと作ろに！ではオリジナル巾着を作りました。松阪地区のアドバイザーの方々が用意くださった野菜のスタンプでバラの花を表現したり、牛の形が彫ってある芋版を使ってオリジナル巾着の出来上がりです。



最後に皆さんお待ちかねの「モー太郎の部屋」モーっと話そに！みんなでワイワイ情報交換。あら竹の「モー太郎弁当」アドバイザー生産物を使用したサラダ、イチゴ、梨、お茶を堪能しました。そして、おしゃべりタイムです。獣害の話や子育てと両立の事、休日の確保等で皆さんそれぞれの想いがあり盛り上がりました。最後に、来年度開催の伊賀地区女性アドバイザーの方々より「普段は忍んでおりますが、研修会開催の時は皆さんと共に楽しみたいと思います。どうぞ楽しみにしてください。」とご挨拶いただきました。

研修会のまとめに、中央農業改良普及センターの清水所長から「農業全体をみていますと資材は高騰しているのに価格は転嫁できない。苦しい農家さんもいる中、改善に向かうには作ったものに対して味方になっていく消費者を作っていく。その仕事をしていくのがアドバイザー。後進の方を育てていって更に活動していただきたいと思います。来年、伊賀地区での研修会楽しみにしています。」といただきました。

アドバイザー研修に参加して 世話人：小林陽子さん（鈴鹿・亀山）



師走に入った12月5日（火）、少し寒さが体に染みるお天気になりましたがコロナ禍の時期を経て、今回久しぶりに現地での三重県農村女性アドバイザー交流研修会が開催されました。外の寒さとは裏腹に会場に一步入ると熱気が伝わり、久しぶりに会えた仲間とのしばしの会談。話が尽きることはありません。

今回のテーマは、「モーっと」聞こに！話そに！笑おに！。松阪地区のアドバイザーさんが知恵を出し合い趣向を凝らした演出でとても楽しい時間を共有することができました。芸達者な松阪地区の皆様の一挙一動あふれる司会進行、講演、メンバー紹介、野菜スタンプの巾着作りと「まっつあか」生まれの私はより親近感がわき、わくわくして過ごしました。「モー太郎弁当」も美味しくいただきました。ごちそうさまでした。



「モーっと」聞こに！話そに！笑おに！



～各地区の活動を紹介します！～

キラリ発信！

【桑員地区】

令和5年度の桑員地区農村女性アドバイザーは13名で活動しています。

県域や地区の研修会に積極的に参加し交流しています。

地区総会 新旧顔合わせしました！ R5年7月

総会では新任メンバー2名との初顔合せ、昨年度の振り返りと今年度の計画を話しました。

総会後は歓送迎会を開催しました。コロナ禍で歓送迎会を延期していた間の卒業生の皆さんにも参加いただき、いつもより大人数で食事を楽しむことができました。

地区研修会 地元食材「大豆」の活用を学ぶ！ R6年1月

地区研修会には11名が参加し、(株)小杉食品の見学と令和7年度の県域研修会の開催に向けた意見交換を行いました。

小杉食品は桑名市内の納豆メーカーです。原料の大豆のうち約半分が国産で、桑名管内で栽培された「すすおとめ」や「フクユタカ」も取り扱っています。

納豆の説明を聞き、工場見学と納豆手づくり体験をしました。納豆の保存方法や料理への活用方法などについても質問し、地元食材「大豆」の活用について学びました。



工場見学



納豆手づくり体験



一晩発酵させたら完成



県産すすおとめとフクユタカ



お土産に納豆を購入

小杉食品さんの本社前にはいつでも納豆を購入できる自動販売機があります。桑名にお越しの際はぜひ寄ってみてください！

R7年度は桑員地区で県域研修会を開催します。開催に向けて準備をしていきます。今回は開催準備の大まかなスケジュールや過去の開催事例について情報共有しました。他地域の皆さんお楽しみに♪♪

【四日市鈴鹿地区】

きらい発信！

三沓鈴亀地区農村女性アドバイザーは、総勢23名が活動しています。

～ 第1回（7月）～

第1回会議は、今年度新規メンバーの清水さんが経営する「かぶせ茶カフェ」に15名が集まり、各自好きな茶葉を選んで淹れたお茶膳、同じく新規メンバーの堤さんが商品化するかぶせ茶を使ったマフィン、阿部さんのメロンをいただきながら、自己紹介やアドバイザーの役割、そして今年度の計画について話し合いました。

新しいメンバーも交えて、今回も‘ワイワイガヤガヤ’と楽しい時間を過ごしました。

市町の担当者の方にも同席いただきました。



茶葉が開くのを見守ります



かぶせ茶カフェお茶膳・かぶせ茶マフィン



～ 第2回（11月）～

第2回目は令和4年度からアドバイザーになられた鶴飼さんご家族が経営する「鶴飼農園」を訪問し、頼もしい後継者さんから経営内容を説明をいただきながらほ場を見学し、植木の生産や販売について学びました。

続いて、藤田さんの作業場に移動し、昨年度好評だった寄せ植え教室をアンコール開催いただきました。藤田さんにコツを教わりながら思い思いに作った寄せ植えは、どれも素敵に出来上がり、今年も良い年末年始を迎えられるね！とみんな笑顔になっていました。

その後、そのまま場所をお借りして内田さんが経営するカフェメニューのロールケーキをいただきながら、下半期の活動予定を話し合いました。



鶴飼農園のほ場を見学



出来上がった寄せ植え

～ 第3回（2月予定）～

2月には四日市市の米農家さんが経営する薬膳料理のお店でランチをいただきながらの交流会と、鈴鹿医療科学大学の高木副学長をお招きして「体を整える食事（薬膳料理）」について勉強する研修会を開催予定です。通信で当日の様子をお伝え出来ないのが残念ですが、17名と多くの方から参加申し込みがあり、きっと‘ワイワイガヤガヤ’賑やかな会になるだろうと、今からとても楽しみです。

【津地区】

きらり発信！

今年度の活動を紹介します！

【楽しい♪美味しい キャベツ収穫体験と調理実習を行いました】

11月28日、アドバイザー鵜飼みわさんの「鵜飼農園」を訪問し、キャベツ圃場見学と収穫体験を実施しました。圃場見学では、鵜飼さんご夫婦から栽培期間中に気を付けていることやキャベツの品種による食感の違い等について話を聞きました。収穫方法を教えていただいた後は参加者全員でどんどん収穫したので、あっという間に収穫台車がいっぱいになりました。収穫体験後は、とれたてキャベツを使った調理実習を行いました。キャベツの甘味とお肉の旨味が最高なお好み焼き、参加者が持ち寄ったサツマイモ、イチゴ、柿、トマト等を美味しくいただき、たくさんお喋りをして、心もお腹も満たされる一日になりました。



キャベツの収穫体験



お好み焼き、皆で美味しくいただきました

【イベントに出展し、津市産農産物のPRを行いました】

11月3日、4年ぶりに津市農林水産まつりが開催されました。青少年クラブと合同で出展し、キャベツやサトイモ、しいたけ等の販売を行いました。メンバーは津の恵みPRキャラクター「つ乃めぐみ」ちゃんのオリジナルTシャツを着て、めぐみちゃんのPRも行いました。久しぶりのお祭りでしたが、多くのお客様がブースに立ち寄ってくださり、用意した農産物のほとんどを売り切ることができました。

また、12月15日、16日に三重テラスで開催されたつデイに参加し、津市産農産物のPRを行いました。今回はブース出展しませんでしたでしたが、お客様への声掛けや他の出展者・イベント主催者のサポートを積極的に行い、消費者と生産者の交流を促進する役目を果たしました。



イベントの様子。農林水産まつりでは、めぐみちゃんがブースに遊びに来てくれました

【松阪地区】

きらり発信！

今年度の活動を紹介します！

【牛祭りに出店しました！】

11月26日に松阪牛共進会と合わせて開催される「松阪牛まつり」に松阪地区農村女性アドバイザーの皆さんで出店しました。

牛まつりでは、参加した8名のアドバイザーの皆さんが栽培された野菜、加工品販売やクラフト体験を行いました。

クラフト体験では野菜の切れ端を使った野菜スタンプでのオリジナル巾着作りを行いました。10時から14時までの短時間に子供たちを中心に40名ほどが参加し、大盛況でした。参加された方々はアドバイザーの指導のもと普段は気にしていなかった野菜の切り口に驚きながらそれぞれ個性豊かな作品を作っていました。



クラフト体験の様子



皆さんでパチリ

【松阪地域でネットワーク研修会が開催されました！】

2月5日にBANKYO文化会館（多気町）にて三重県農村女性アドバイザーネットワーク研修会が開催され、県全域のアドバイザーと関係者を含め62名参加がありました。今年は松阪地区での開催で、「モーっと」聞こに！ 話そに！ 笑おに！と題し、松阪管内のアドバイザーの皆さんで約1年前から準備を進め、講演、松阪弁クイズ、クラフト体験など様々な企画を行いました。講演では松阪牛肥育農家の竹内さんに「こだわり」や「思い」を話していただき、参加された皆さんは熱心に聞き入っていました。次に管内アドバイザーの皆さんが松阪弁で自己紹介をした後、松阪弁のクイズを行いました。皆さんがよく知っている言葉から初めて聞くようなものまで出題され、とても盛り上がりました。

最後に昼食を交えながら行った意見交換会では、普段のたわいのないことから、農業をされていて困っていることや子育てと農業の両立など様々な話題が出ており、活発な意見交換となりました。



昼食を交えながら意見交換



竹内さんの講演

【伊勢志摩地区】

今年度の伊勢志摩地区の主な活動を紹介します。

今年度の伊勢志摩地区の農村女性アドバイザーは、15名。

水稲2名、いちご5名、ミニトマト1名、花き5名、肉牛1名、種鶏1名です。



【企画会議】

7月24日に企画会議を開催しました。新しくアドバイザーになった2名を含めて8名が集まり、まずは自己紹介から始めました。

今年度の活動について相談し、新型コロナウイルス感染症による活動自粛が解除されたことや、新しい仲間も増えたことから、アドバイザー同士が知り合う機会を作っていくことになりました。アドバイザーネットワークの活動についても話し合いました。

【伊勢志摩地区アドバイザー交流会】

10月6日、多気町の「鄙茅」で交流会を開催しました。

清流 宮川の流れを窓から望むロケーションで、おいしいお料理をいただきながら、ゆっくりとお話ことができました。日常から離れゆったりとした時間でリフレッシュし、明日からの英気を養いました。

【県アドバイザー研修会に参加しました】

12月5日の県農村女性アドバイザー研修会へは4名が参加しました。

竹内牧場さんの肉牛肥育に対する思いや日頃の取組、新しいチャレンジのお話や、松阪のアドバイザーの皆さんのとっても楽し〜い演出によるメンバー紹介と松阪弁クイズ、野菜スタンプ。座談会では、班の皆さんの農業や最近の推しの話などに話が広がりました。

毎回思うことですが、アドバイザーの皆さんのバイタリティ・ホスピタリティがあふれる、楽しく、新しい発見がたくさんあった研修会でした。

松阪の皆様、準備も大変だったと思いますが、どうもありがとうございました。

また、終了後、伊勢志摩のアドバイザーで今後の活動について相談しました。



今年度の活動を紹介します♪

〇スマイル・くノ一、リリーベル・くノ一との交流研修会を開催しました。

2月7日（水）に農事組合法人三重伊賀里山さんが経営する農村カフェ ideca（名張市井出字朝尾890）で、交流研修会を開催しました。

ideca は令和4年7月にオープンしましたが、参加した12名全員がまだ一度も訪れたことがなく、店内の窓から見える景色に歓声があがっていました。

リリーベル・くノ一は40代から50代の女性農業者で構成され、その活動を通して農村女性アドバイザーになっていただいた方がたくさんみえます。また、スマイル・くノ一には現役アドバイザーとそのOBが存在します。このように交流することで、世代を超えたつながりができればと思っています。



令和6年度、女性アドバイザー研修会は、伊賀でお待ちしております。
みなさん！お楽しみに～♪♪



令和6年12月3日(火) 10時～14時
伊賀市の「伊賀焼伝統産業会館」にて開催予定です♪



【紀州地区】

きらい発信！

*紀州地区農村女性アドバイザーの紹介をします。

今年度の紀州地区農村女性アドバイザーは7名で、柑橘2名、梅1名、施設園芸2名、畜産2名となっています。

アドバイザーが2名在籍している管内の農村女性組織「いきいきネット紀州」では、7月、8月、1月にはJA伊勢と紀州地域農業改良普及センターによる温州みかん栽培管理講習会を行いました。また、12月には柑橘の勉強会と紀北町の女性アドバイザーである垣内園芸の垣内光代氏による「花苗の寄せ植え体験」を開催し交流を図りました。



花苗寄せ植えの様子

また、今年度は女性アドバイザーネットワーク企画運営会議の活動現地調査として、紀州地域のカンキツ及びエアプランツの圃場を見学していただき、各地区世話人との意見交換等の交流を行いました。



かきうち園芸にて



かきうち園芸のパンジーのハウス



紀州普及センターにて企画会議



野々下氏のみかん園



南紀グリーンハウスにて



☆担い手支援課からの情報コーナー☆

女性農業者の活躍促進・登用推進について

地域の農林水産業において女性は、新たな発想と取組により、その活性化に大きな役割を果たしています。また、基幹的農業従事者の約 4 割を女性が占め、重要な担い手となっています。

そこで、農業分野への女性の経営参画を推進するため、国・県では男女共同参画基本計画を策定し、農業委員会、農業協同組合等役員への女性の参画の推進や家族経営協定の普及、女性が働きやすい環境の整備などの支援に取り組んでいます。

家族経営協定について

☆家族経営協定とは？

家族農業経営に携わる各世帯員が、意欲とやりがいをもって経営に参画できる魅力的な農業経営を目指し、経営方針や役割分担、みんなが働きやすい就労環境などについて家族間で十分に話し合い、第三者の立ち会いの下、取り決めるものです。本県では、令和 5 年 3 月末時点で 412 戸が締結しています。

【目的】

- ① 農業経営目標と家族の目標を同時に実現
- ② 経営内容・経営目的・家族の目標を「見える化」し共有
- ③ ワーク・ライフ・バランスの確立（農業の役割分担、家事の役割分担、社会参画など）
- ④ 経営発展（経営方針、打ち合わせ、休日・労働時間・収益の分担などの就業条件、資質向上など）
- ⑤ 次世代育成、経営継承のツール

【制度上のメリット】

- ① 認定農業者の共同申請が可能になる
- ② 農業者年金の国庫助成を受けられる
- ③ 農林水産祭参加の表彰行事における夫婦連名表彰を受けられる

☆家族で目標・ルールについて話し合いをしましょう！

家族経営では、家族が共に生活を営むなかで、経営に携わることから、お互いが愛情をもって、気持ちよく働くためのルールや環境をつくるのが大切です。

しっかりお互いが向き合いながら、同じ目標に向かって一人ひとりが活躍できる経営について考えましょう。

☆締結後、見直しはできていますか？

協定が実行されているか確認してみましょう。自分たちの考えていた農業経営と現状を比較し、修正点があれば、見直しましょう。定期的に、家族内で話し合い、見直すことで、経営上の課題に気付くかもしれません。

詳細はガイドブックをご覧ください。

<https://www.maff.go.jp/j/keiei/jyosei/kyoutei.html>



農業委員について

☆農業委員とは？

市町に設置されている農業委員会の一員として、効率的な農地利用について公正な審査を行うほか、地域農業の発展に向けて農地利用の最適化に向けた取組を推進します。

【農業委員会の業務】

- ① 優良農地の確保と利用
(農地法に基づく許可、農地パトロール、遊休農地所有者に対する意向確認等)
- ② 農地利用の最適化の推進
(担い手への農地利用の集積・集約化、遊休農地の発生防止・解消、新規参入の促進)
- ③ 農業施策に関する意見の提出
(行政等への提言)



【委員の任期及び任命】

任期：3年

農業者等の推薦・募集の結果を尊重して、議会の同意を得て市町長により任命されます。

【農業委員の数】

29市町 426名の農業委員のうち、25市町で 49名の女性農業委員が活躍されています。
(令和5年度7月末現在)

☆女性が農業委員になると…？

- ・農業委員会に新たな視点加わり、男性だけでは持ちえなかった経験や情報網などのリソースがもたらされます。
- ・結果、地域内の多様な意見に基づく検討につながり、組織の活性化や委員会業務の進展等の効果が期待されます。

☆地域農業を元気にしていくためには、女性の力が必要です。

ぜひ農業委員になって活躍してください！

このコーナーでは、農村女性アドバイザーが各地域でご活躍いただくため、押さえておくべき情報（新任者研修時にも紹介しました）を紹介しています。

農林水産部担い手支援課から女性農業者の活躍促進・登用推進に向けて①家族経営協定、②農業委員の2つの内容について情報提供いただきました。

この情報を話題にして、地区でも色々話し合ってみてくださいね♪

★三重県農業研究所生産技術研究室からのご報告★

三重県農村女性アドバイザー様

2024.3.15

三重県農業研究所生産技術研究室

農業女性の農業労働中の健康状態の検出と 体調不良時の労働損失額が明らかになりました

2022.11 から 2023.2 の間に御協力頂いた農村女性アドバイザー様及びそのご家族様 7 名の農作業中の生体計測データから、自身の体調不良を検出することができました。また、2023.6.27 から 7.28 の間に皆様に御協力頂きましたアンケート調査について、体調不良が労働に及ぼす影響の一部が明らかになりましたので報告いたします。

◆ 結果のポイント

1. 労働中にウェアラブルデバイス(心拍数、動きの大きさや衣服内温度の計測が可能)を装着することで、体調不良(腹痛)の自覚症状がある日は、自覚症状の無い日と比べ、安静時の心拍数(動きの大きさが0の時)が上昇していました(図1)。この他、吐き気の自覚症状がある日も同様の傾向を示しました(データ略)。一方で、関節痛などの筋肉や骨格系による体調不良は本デバイスでは検出できなかった。
2. 月経症状による年間の労働損失額は 10.5 万円/年/有症者であった(表1)。
3. 更年期症状による年間の労働損失額は 31.7 万円/年/有症者であった(表1)。
4. その他の体調不良による年間の労働損失額は 38.3 万円/年/有症者であった(表1)。その他の体調不良の約半数は、関節痛などの筋肉や骨格系による体調不良であった(データ略)。
5. 女性特有の体調不良を含めた何かしらの体調不良を持つ者の労働損失額は 43.4 万/年/有症者であった(表1)。
6. 労働損失額に占める、仕事をしているが生産性が低下している状態[プレゼンティーイズム^{注1}]¹⁾の比率は、いずれの症状も 85%を超えていた(表1)。このことから、労働損失の中心は、休んだことによる損失[アブセンティーイズム^{注2}]²⁾ではなく、労働をしているがパフォーマンスが低下している状態であった。

これらのことから、ウェアラブルデバイスを用いて自身のその日の安静時心拍数が普段の安静時心拍数より高い時は、作業内容の変更や、より早めの休息をとるなどすることで、労働事故のリスクを下げられる可能性が示唆されました。また、労働損失額の大きさから、月経や更年期症状に対するサポートの必要性と、体調不良になりにくい、または悪化させないための職場のサポート方法について検討が必要であると考えられました。

注

1) プレゼンティーズム：WHO（世界保健機関）によって提唱された健康問題に起因したパフォーマンスの損失を表す指標。欠勤にはいたっておらず勤怠管理上は表に出てこないが、健康問題が理由で生産性が低下している状態。

2) アブセンティーズム：心身の体調不良が原因による遅刻や早退，就労が困難な欠勤，休職など，業務自体が行えない状態。

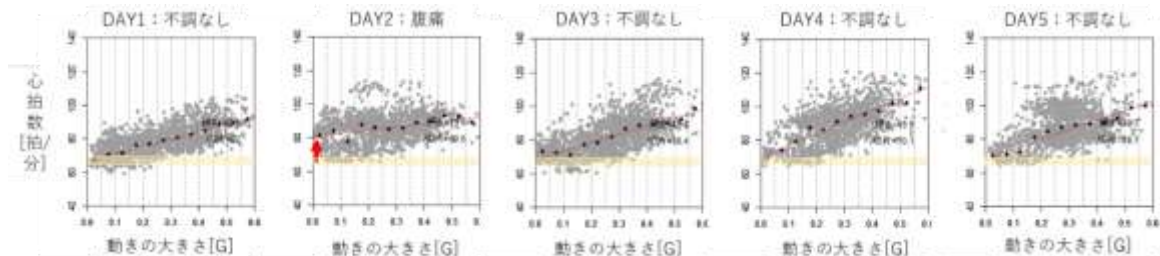


図1 農村女性アドバイザーにおける労働期間中の動きの大きさと心拍数の関係
(5日間：DAY2に腹痛の自覚症状があり，いずれの日も労働を行っている。)

※不調なしの日の安静時心拍は70拍/分程度だが，腹痛の日は80拍/分となっている。

表1 体調不良による労働損失額

三重県農業女性(郵送による回答)							
体調不良の要因	回答者数	うち症状 有	仕事 中の 有症率	プレゼン	アブセン	労働損失 (A)+(B)	プレゼン ティーイ ズム比率
				ティーイ ズム (A)	ティーイ ズム (B)		
	N	N	%	¥/year/person	¥/year/person	¥/year/person	
月経症状	50	45	90.0	91,072	14,279	105,351	0.86
更年期症状	86	37	43.0	286,200	31,260	317,459	0.90
その他の不調	98	51	42.0	325,728	57,326	383,054	0.85
計	98	70	71.4	377,105	56,901	434,007	0.87

*時間あたりの労働単価は、2023年の最低賃金の全国加重平均、時給1,004円を採用した。労働損失はNagata.et.al(2018)の方法に倣い計算した。

◆研究に関する問い合わせ先

三重県農業研究所 生産技術研究室野菜園芸研究課 磯山陽介
連絡先：email: isoyay00@pref.mie.lg.jp TEL:0598-42-6358

◆御礼

2021年実施のアンケート結果を含め、複数の学会で報告や論文投稿をさせて頂いています。また、今回7名の生体計測とアンケートでは105名にご協力いただき感謝いたします。ここに載っていない自由回答のコメントやデータも有用な内容であり、分析を進めます。引き続き我々の目指す、働く女性のためになる効果的な支援システムの構築となるよう努めて参ります。

【トピックス】

きらり発信！

♪第36回農山漁村のつどいが開催されました♪

「ハッケン×ハッシン みえの美し食

～女性が推す『農』『畜』『水』の魅力～」



3月2日に「男女共同参画フォーラム～みえ男女 2024～の中で『農山漁村のつどい』が開催されました。農山漁村のつどいでは女性アドバイザーが実行委員を務めております。三重県の農山漁村には魅力的な特産品や食文化があります。野菜ソムリエや実行委員会の各組織から三重の女性たちの視点でハッシン（発信）さらに、特産品の中から伊勢茶をセレクトし、美味しいお茶の淹れ方講座を開催いたしました！三重県の食の魅力をハッケン（発見）し、思いを語り合いました。また、エントランスでは県内産品の物産販売会がありました。



講演『三重の食の魅力を知って食べる♪
個性を楽しみ心豊かに健康に』

株式会社野果増しや
代表取締役社長
野菜ソムリエ上級プロ
中澤真規氏



ワークショップ
『伊勢茶の美味しい淹れ方講座』

みえなか農業協同組合理事
出口千晴氏



第36回農山漁村のつどいに参加して 世話人：大西京子さん（津）

農山漁村のつどいに参加させていただきました。今回は例年とは企画が異なり、講演とワークショップでした。はじめに、野菜ソムリエの中澤真規さんの講演では、野菜の一つ一つをとっても大切にしている事、産地・気候の違いで使い分ける事なども知りました。また、出口千晴さんのワークショップでは、今はペットボトルが手軽ですので買っていますが急須で飲むお茶はやっぱり美味しいと思いました。これから大きくなる孫達にも飲ませるようにしたいと思います。みえの美し食の魅力をわかりやすく伝えていただきました。ありがとうございました。

* 農村女性アドバイザーホームページ *

ネットワーク通信最新号を右の二次元コードから Web で見ることができます！



<三重県農村女性アドバイザーネットワーク事務局>

〒515-2316 松阪市嬉野川北町530

三重県中央農業改良普及センター普及企画室担い手課（泉、長嶋）

